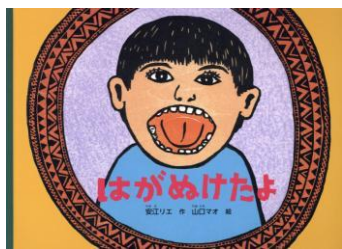


わ く わ く

6月号

本 だ な



『はがぬけたよ』

安江リエ／作 山口マオ／絵 福音館書店  
ぐらぐらのまえばが気になる、こうじ。おとうさんは、  
ドアについているライオンのわっかと、こうじのはを糸で  
むすんで、はをぬこうとします。こわくてにげだすと、み  
ちのむこうから、はをぬかれたワニがやってきました。

えほん  
(1年生～)

1・2年生

K913 『はいくしょうてんがい』

荻田澄子／作 たごもりのりこ／絵 偕成社  
しょうてんがいのかんばんからとびだしてきた、たこ  
やきや、くりまんじゅう。いちばんのみせはどこか、け  
んかをはじめます。そこへ、まねきねこがやってきて、「は  
いく大会」でいちばんをきめたらどうかといいます。



3・4年生



K913 『オバケ屋敷にお引越し スギナ屋敷のオバケさん』

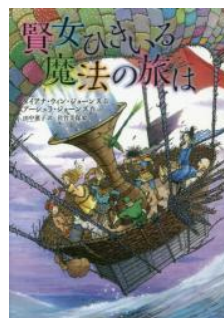
富安陽子／作 たしろちさと／絵 ひさかたチャイルド  
オバケインチロウさんは、みんなに「オバケさん」とよば  
れる料理研究家。広い台所がほしくて、山の中の古い家に引  
越すことになります。夜中、荷物をかたづけて料理を作っ  
ていると、小さな女の子が玄関にあらわれました。

5・6年生

K933 『賢女ひきいる魔法の旅は』

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作 アーシュラ・ジョーンズ／作 田中薫子／訳 佐竹美保／絵 徳間書店

12歳のエイリーンは、魔法の使い手で「賢女」と呼ばれるベック叔母さんくらしています。ある時、大王の命令で、さらわれた皇子をさがす旅にでますが、途中で叔母さんが呪いをかけられてしまいます。





えほん  
(3年生～)

『干したから...』  
森枝卓士／文・写真  
フレーベル館



えほん  
(1年生～)

『ことりのおそうしき』  
マーガレット・ワイズ・ブラウン／文  
クリスチャン・ロビンソン／絵  
なかがわちひろ／訳  
あすなる書房



1・2年生

K983 『まるごとごくり!ロシアの<sup>むかしばなし</sup>昔話』  
シンシア・ジェイムソン／再話 アーノルド・ローベル／え  
小宮由／やく 大日本図書

子どもがいなかったおじいさんとおばあさん。かわりに、土で小さな男の子のにんぎょうの「土ぐう」をつくりました。すると、できあがった土ぐうがとつぜんしゃべりはじめ、なにか食べさせてほしいといひます。

『<sup>ろせん</sup>路線バスしゅっぱつ!』

えほん

鎌田歩／作 福音館書店  
つばさくんたちは、<sup>こうえん</sup>路線バスに乗って公園に行くことになりました。バスには、お客さんを<sup>きやく</sup>あんぜんにはこぶための、たくさん<sup>うんてんせき</sup>のくふうがされています。ふだんはみられない<sup>しやない</sup>バスの運転席や、車内のようすをしょうかいします。



2年生～



3年生～

K488 『<sup>かんさつぎ</sup>ツバメ観察記』

ちしきの本

孝森まさひで／文・写真 福音館書店  
ツバメが、どうやって生まれて<sup>せいちょう</sup>成長するか知っていますか？それは、まず親鳥が<sup>す</sup>どろで巣をつくることからはじまります。作りはじめたばかりの巣から、ヒナが<sup>じゅんぱん</sup>巣立ちをするまでの52日間を、写真で<sup>じゅんぱん</sup>順番におつていきます。

K494 『<sup>ぎそく</sup>義足でかがやく』

ちしきの本

城島充／著 講談社  
けがや病気で足をなくした人が、足のかわりに使うのが義足です。小学2年生で左足を<sup>うしな</sup>失った<sup>たまきゆうま</sup>田巻佑真くんは、今では義足で<sup>たつきゆう</sup>卓球の大会に出場しています。義足をつくる<sup>うすいふみお</sup>臼井二美男さんが、佑真くんをもう一度走れるようにしてくれたのです。



5年生～